

おめでとうございます!!

愛知県医療功労賞受賞



第50回愛知県医療功労賞受賞 岡崎支部・齋藤 誠会員

永年に渡って地域の医療活動に貢献した人に送られる「第50回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン、アインホールディングス協賛)の愛知県受賞者に、岡崎支部の齋藤 誠会員(75)が選ばれました。

施術50年教壇にも立つ

象に残っています」岡崎市で接骨院を経営していた父親の姿を見て育ち、自然にこの道を選んだ。専門学校を卒業後、名古屋市内の整形外科病院に勤務。その傍ら母校の教務にも携わった。接骨院を開いたのは5年後。同時に専科教員として教壇に立ち、数多くの後進を育てた。

「開業当時は、トヨタ自動車のスポーツグラウンドが近くにあって、そこからサッカー、ソフトボール、野球など、スポーツ選手のけがをみる機会も多かった。次男が後継者として接骨院と一緒に勤務している。身体的にもそろそろ息子に任せようかと考えていました。これを励みにまだまだ頑張っていきたいですね」と元

(岡崎支部 菅沼 秀生)



トヨタ自動車本社近くで接骨院を開業、今年で50年を迎えた。「開業して少したった頃、80歳の2人暮らし夫婦の奥さんが下腿骨を骨折しました。旧下山村まで二十数キロ。年末年始を含め約3か月ほど通った。そのかいあって、一人で歩けるまで回復したのが今でも印象的だ。

読売新聞
令和4年2月11日掲載記事

「コロナ禍で非常に厳しい状況だが、V字とは行かなくても少しでも右肩上がりにと、国、県、名古屋市と今話し合いをさせていただいている。どうか我々の対応をご理解いただきたいと講演を終了した。



2.医科併給問題について

藤川 和秀 担当副会長

保険者の不適切な患者調査の適正化について「剥がし屋対策」、同一負傷に係る療養費の給付と療養費の併給について、併給防止策、骨折・不全骨折・脱臼に対するの併給や健康保険法の87条の趣旨等について述べられた。

また、電子請求の現状についても説明をされた。

3.柔道整復療養費取扱いの注意点

山口 雅彦 保険部長

返戻状況・返戻の原因について述べられ、施術録の書き方、受付表について説明をされた。

併給返戻を受けて、すぐに申請書の傷病を削除しないように注意を呼びかけた。また、保険者が併給返戻とする根拠についても解説をされ、併給となるケースや返戻されたものに対して支給対象とするには、どのようにしたら良いのかについても述べられた。

患者照会事例提出のお願い

本会ホームページの会員専用内に「患者照会の連絡票」がある、連絡票に記入してFax又は申請書提出時に提出してくださいと会員に呼びかけた。

山口保健部長の講演の後、藤川副会長が会員2名の質問に答え終了した。

匠の技伝承プロジェクト

令和4年2月20日(日)午後1時より、「匠の技伝承プロジェクト」の第4回指導者養成講習会が本会講堂で開催されました。

第1回目は「橈骨遠位端骨折」、第2回目が「肩甲上腕関節脱臼」、第3回目が「足周辺の骨折(外果骨折)」で、今回が今年度最後の講習会となり課題は「顎関節脱臼」でした。本来であれば東京の日整会館に全国各地から各都道府県の担当者が集まり講習が開催される予定でしたがコロナ禍ということもあり、Zoomを利用したオンラインによる開催となりました。当日は日整会館で講師が整復・固定およびエコー実技を行う様子をZoomで見ながら各都道府県の担当者が講師に習って実技を行いました。

この指導者養成講習会で研修した内容は、来年度以降の会員研修会(愛整学会後に開催)などで会員の皆様にお伝えしていく予定です。

(中村支部 山北 陽一)



新入会員 紹介



熱田支部
日比 大輝会員

H6.10.18 生
中和医療

柔道 初段
趣味 家庭菜園



豊橋支部
角谷 陽太会員

H1.9.27 生
米田柔整

野球



大曾根支部
稲垣 政志会員

S62.7.14 生
米田柔整

初段
キャンプ



柔道整復療養費取扱い研修会

2月20日(日)午前10時から11時40分まで会館講堂で開催され、会場には41名が、またZoomで178名が参加した。

森川会長は講演後、午後1時から行われる会議に出席するため、急ぎ東京に出発された。

1.挨拶及び現況報告 森川 伸治会長

森川会長は初めに挨拶をされ、柔整業界の現状報告、返戻対策、併給問題、柔整業務における通院頻度、明細書の義務化について述べられた。

